

治りにくい腱鞘炎－石灰沈着について

東洋鍼灸院 田中俊男

はじめに：手の使いすぎで腱鞘炎を起こした場合、その痛み起因する関係腱を治療するとよく治る。
しかし時々、定番の治療をしても良くならない腱鞘炎がある。
こういう場合はレントゲン撮って石灰化を疑う。
手首の痛みには労作性以外に石灰化病変があるので、注意が必要だ。

判定：	労作性	石灰沈着
症状	明らかに手の使いすぎがあり、屈筋や伸筋、特に内側上顆や外側上顆に反応が出る。 患者自身に心当たりがあり、問診にて判断がつく。 痛みが神経の経路や筋肉の起始停止に沿っていて、判断しやすい。	突然痛みが起こる。 発赤や腫れなどの炎症症状が出る。
Icing	氷で冷やして楽になる。	氷で冷やして楽にならない。
Taping	テーピングで楽になる。	テーピングで楽にならない。
Injection	痛み止めの注射を使わなくても治る。	痛み止めの注射で治療。
経過	治療に比例して痛みは軽減	治療に痛みは比例しない
	安静にて治癒	石灰は体内にある白血球の貪食作用によって、無くなっていく。



考 察：先日両側の手首の痛みを訴えてこられた方が、片方は労作性、他方は石灰沈着でした。
固定概念を持たずに、治療経過をしっかり診ていけば問題ないですが、
少しでも経過がおかしければ、レントゲン検査の必要があります。

文献引用：<http://kotoseikeigeka.life.coocan.jp/11sekkaichinchakute.htm>